

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた  
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 大阪市立御幸森小学校  
 種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等教育学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )  
 住所 〒544-0034  
大阪市生野区桃谷5-5-37  
 E-mail : e154102a@ocec.jp  
 Website : http://www.ocec.ne.jp/es/miyukimori-es/  
 児童生徒数：男子 76 名 女子 62 名 合計 138 名  
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

4. 活動内容

- (1) 1年間の主な活動内容<詳細は、HPをご覧ください>  
 ・各月児童朝会 パースディー集会 (学校長より手作りカードのプレゼント、  
 全校児童で歌を歌って祝う。)

- ・ 児童集会活動ーたてわり班活動
- ・ 地域学習
  - 2年ー校区たんけん、3年ー町たんけん（商店街、コリアタウン調べ）
  - 4年ー平野川のつけかえ 5年ーもつごの放流、ものづくり
  - 6年ー地域の歴史学習
- ・ ゲストティーチャー、交流活動
  - 6年ー\*日韓茶道体験、平和学習（大阪大空襲） 地域の配食サービス  
ラグビー体験教室（大阪朝鮮高級学校）
  - 5年ー服のチカラ（ユニクロ）、東日本大震災と防災について  
食肉皮革の学習について
  - 4年ーパッカー車体験、新聞づくりについて 大和川のつけかえについて  
朝鮮初級学校との交流
  - 3年ー盲導犬の学習 商店街のお話 朝鮮初級学校との交流
  - 1年、2年ー昔遊びの交流（地域）、給食交流（地域）
- ・ 全学年、複数学年での活動
  - 人権のお話（障がい者理解、在日外国人教育）
  - 「みゆきもりサマーフェスタ」開催
  - JICA 関西防災訓練
  - おはなし会
  - 長谷川義史絵本ライブ
  - クリーン作戦（地域清掃）

\* 「日韓茶道体験」は、ユネスコスクールに認定された本校がめざす異文化理解、多文化共生の取組みとしてふさわしい教育活動として企画実施しました。詳細を下記のように報告します。

#### <2013年度 研究テーマ>

「児童の自主性と協調性を養い心豊かにしなやかに生きる力を育む。」

～言語活動を通して～<好きやねん♡ 御幸森 きて、みて、きいて！～>

《めあて》日本と韓国の伝統的茶道を体験し、それぞれの民族が大切に守り伝えてきた文化のすばらしさを理解し、多文化共生の意識を高める。

#### \* 日本茶道体験 \*

実施日 2013年10月23日（水）

場 所 大阪市天王寺区

講 師 佐伯江南斎 佐伯家四代目遠州流本部家元 財団法人京都武者小路千家官休庵常任理事

体験参加児童 6年生 35名 引率教員 3名

#### ○経過

当初は、校区内で茶道について指導してくださる方を探していたが、学校内での実施では、喫茶体験はできても、茶道の精神に触れることは難しい。日本茶道の精神文化を児童が学ぶためには、茶室での体験が必要であるということ、受け入れていただける方を再度探した。幸いに徒歩20分ほどで行けるところに、佐伯家四代目遠州流本部家元の佐伯江南斎宗匠の自宅兼茶道教室（お

茶室)があり、学校側の意図をお話したところ快く受け入れてくださった。

#### ○事前指導、学習

まず、「世界のお茶」について事前学習をした。大阪市教育研究会国際理解部の資料「世界のお茶」のテキストをもとに、インターネットや書籍などで、お茶の歴史や種類、民族による入れ方の違い等について調べた。最近では、ペットボトルやティーバックの普及で、家庭で急須に茶葉入れて飲む機会が少ない児童もいるので、日本のお茶に歴史や淹れ方についても学習した。

児童は、世界にもさまざまな「お茶」が存在することを知った。また、茶葉は、そもそもはインドが発祥とされているが、インドから地球を西回り東回りとそれぞれの土地や民族に伝わっていく過程で、多様に変化することに関心を示した。もともとは同じものが、時間と空間を経るなかでそれぞれに独自に変化していくことは、おもしろくすばらしいという感覚を持つことができた。

そこで、日本の伝統文化である侘び茶(抹茶)による茶道と韓国茶道について体験することにした。

#### ○日本茶道体験

まず、学校を出発する前に、身だしなみをチェックした。児童には、あらかじめ、茶室に入るときに履く白足袋代りの白い靴下を持ってくるように指示した。

あいにくの雨であったが、徒歩20分で佐伯江南斎先生の茶道稽古場(お茶室)に着いた。門までは塀が続き、純和風のしつらえに児童は緊張な面持ちで門をくぐった。出迎えていただいた若先生や門人の方々にご挨拶し靴をぬいで、玄関わきの小部屋で白い靴下に履き替え、広間に集合した。

まず、講師の若先生から、本日の体験のながれを説明していただいた。次に、佐伯江南斎宗匠から、直々に日本の茶道についてのお話を聞かせていただいた。

佐伯先生が、一番丁寧に児童にお話いただいたことは、相手を想う気持ちの大切さであった。お茶を入れるという動作の中にどれほどのおもいが込められているかということを見てもわかるようにさまざまな例をあげてお話された。親や自分の周りだけに感謝するのではなく、「自分が生かされている」ということに気づくことや自ら学ぶことの意味についてもゆっくりと児童に語りかけてくださった。

また、日本の茶道だけでなく、お茶の歴史にも触れ、次は、韓国茶道を体験することをふまえ、それぞれのルーツやもてなしの気持ちは同じであること、それぞれのちがいを尊重することの意義についても触れてくださった。

千利休が大成させた詫び茶は、茶室では、亭主と客が直に心通わせる狭い茶室、誰でも必ず頭をたれてはならなければならないにじり口の意味など、身分の差なく誰でもお茶を嗜むことができるようにしたというお話にも興味を示していた。

児童は、全員、私語もなく正座のまま40分近くお話にじっと耳を傾け真剣な面持ちで聴いていた。

児童にもよく理解できるわかりやすいお話の内容と他の音は全く聞こえない畳が敷き詰められた少し暗い大広間という特別な環境が児童の意識を集中させたと思う。佐伯先生のお話の内容や話し方だけでなく、普段、教室では見ることのない児童の意外な面を知ることができ、教師側にとっても学ぶことが多かった。

大広間で講話の後は、グループごとに四畳半の茶室に案内された。そこでは、

電灯を消した昔ながらの灯りを体験した。また、そこから、茶室につながる庭（露地）なども見学した。

次に、二階の大広間にあがり、喫茶とお手前の体験をした。お菓子のいただき方、お茶（薄茶）の飲み方、お茶碗の運び方、お茶の点て方をそれぞれグループに分かれ、交代して教えていただきながら体験した。抹茶を飲んだことのある児童は数名いたが、初めての体験で皆大変緊張していた。お茶を点てる時は、お弟子さんたちが、児童一人一人についてくださったので、スムーズにできた。学校では、「苦いから飲めない」とっていた児童も、「お菓子を先に食べるから苦くはない」など、教えていただいたことを言いながら、全員しっかりと飲んでいった。後半は、互いに「おもてなし」の心も芽生えてきて、和気あいあいとお茶と作法を楽しむようすが見られた。

佐伯先生からは、このような体験ができたことに感謝し、ぜひ、今日の体験から学んだことを忘れず、これからも自分の国の文化だけでなくそれぞれの文化を大切にしていってほしいというお話をいただいた。来た時は緊張していた児童たちも充実したようすで、佐伯先生たちにご挨拶をして帰校した

#### ☆児童の感想☆（複数意見を含む）

・お茶を飲む時や点てる時の作法や畳のへりを踏んではいけないなどいろいろ教えていただいた。

・お茶の大切さを知った。

・お茶と和菓子が大変おいしかった。

・お茶を飲むのにもいろいろなルールがあってむずかしかったが、それらには意味があることを知って勉強になった。

・日本のお茶の歴史がわかった。 ・とても緊張したが楽しかった。

・お茶は苦かったけど、お菓子の甘さでお茶の苦さがなくなった。餅が嫌いだったが、茶道のお菓子の餅はおいしかった。

・日本の茶道はちゃんと正座をして飲む。正座が大変だったが、楽しかった。気持ちよかった。

#### \* 韓国茶道体験 \*

実施日 2013年11月8日（金）

場 所 御幸森小学校 多目的室

講 師 尹道心（ユンドウシム）先生 韓国茶道京都支部長 ウリ文化協会会長 茶道家

京都市東山区東大路塩小路下ル本瓦町

体験参加児童 6年生 35名

御幸森小教職員 前校長、教育委員会研修担当、地域の方（町づくり推進委員）

#### ○経過

以前、地元、「猪飼野」の歴史を学ぶ研修会の講師としてお招きした古代史研究家である朴鐘鳴（パクチョンミョン）先生から、韓国茶道について教えていただき、その後、尹道心（ユンドウシム）先生のお手前を拝見させていただいた。日本の茶道とルーツは同じでも、その歴史的な経過、お茶の種類、作法等が異なる。しかし、その優雅で華麗なようすは、日本の茶道とは異なるすばらしさがあり、ぜひ、児童に知らせたいと思っていた。本年度、日本と朝鮮半島の茶道体験に取り組むことになり、尹道心先生にお願いしたところ、快諾して

いただいた。ただ、小学生対象はこれまでほとんどなかったもので、どのように実施するかについては、本校の民族講師の洪佑恭（ホンウゴン）先生とも相談しながら計画した。本来なら、佐伯先生のように、お茶室にお伺いし体験するのがベストではあるが、尹先生の教室は、京都にあるので、今回の体験は、学校の多目的室で行うことにした。

#### ○事前指導、学習

洪先生から、まず、男女別に挨拶の作法について教えていただいた。韓国では、女性は、膝をついて座るので、女子は、全員、チマチョゴリを着用することにした。民族学級在籍児童の家庭では、今も、民族の作法にそった法事を行うところが多く、挨拶のやり方を知っている児童も数名いた。単に、挨拶の形だけでなく、なぜ、そのようになっているのかについても教えていただいた。

準備として、屏風、花ござ、韓国式座布団を地域の方に貸していただいた。韓国から買ってきてくださった抹茶と菓子、高麗茶碗、道具は、当日、尹先生とお弟子さん二人が運んできてくださった。

お客さまとして地域の方、前校長、教育委員会の研修担当者が参加して下さることになった。

#### ○韓国茶道体験

正面に屏風を立て、中央に花ござを敷き、その周りに韓国式座布団を敷いた。

開会し、講師紹介のあと、尹先生から、韓国茶道の歴史と特徴について、日本の茶道との違いや共通点についてもレクチャーしていただいた。

その後、お辞儀の練習を行った。儒教精神のもとで、発展した韓国文化は、礼儀をととても重要としている。特に、お辞儀には、角度によって意味や使い方が厳密に分かれている。そのような意味を解説しながら、チマを着たときの美しく見える座り方などについてもお話くださった。

お話が終わった後は、日本の茶道の時と同じように、お茶を点でて運ぶ人として人に分かれてそれぞれを体験した。着なれないチマチョゴリで、お茶を運ぶのは難しかったようだが、皆、神妙な面持ちで、丁寧に行っていた。日本の抹茶とのちがいも体験でき、それぞれに感想を述べていた。（韓国の抹茶は、日本の抹茶より濃くないので、日本の茶道のように先に、お菓子を食べなくてもよいとのことである。）また、お菓子にもそれぞれにちがいがあり、こちらの味も楽しむことができた。

本格的な韓国茶道では、日本の茶室と同じように花を飾り、掛け軸をかけたります。また、伽耶琴（カヤグム）など伝統音楽を奏でたり、書画を楽しんだりもする。ぜひ、機会があれば、そのようなようすも紹介したいと尹先生はおっしゃっていた。

#### ☆児童の感想☆

・韓国のお茶は、日本の茶道と同じような抹茶で見た目の色は似ていたが味はちがっていた。

・韓国の茶道は、日本の茶道に比べ、作法がむずかしくなかった。

・韓国茶道のお菓子も大変おいしかった。 ・韓国のお茶はさっぱりしていた。

・日本の茶道では、お茶を飲む前に、必ずお菓子を食べるが、韓国茶道はどちらでもよかった。

・作法はちがうが、心をこめてお客をもてなすということは同じであった。

- ・チマチヨゴリを着て、お茶やお菓子を運ぶのは難しかったが、楽しかった。
  - ・あまり体験できないことだから、体験できてとてもよかった。
  - ・日本の茶道とまた全然雰囲気がちがっていた。
- ・日本の茶道とよく似たところもあった。
  - ・少しむずかしかったが、韓国の茶道の歴史を知ることができて勉強になった。
  - ・これからは、もっと世界のお茶のことについて調べていきたい。
- ・礼儀についてもっと知りたい。
  - ・世界のお菓子についても調べてみたい。
- ・これからも茶道をやっていきたい。

#### ○成果

児童は、その二つの体験をまとめて、11月23日の学習発表会で「茶茶っとわかるお茶の歴史」と題して、他学年、保護者、地域の方々に報告した。

今回の「日韓茶道体験」は、ESDにおける「知識の交換」つまり異文化理解、多文化共生について学ぶ大変よい機会となり、本校がめざしている「おりあい力」の育成にもつながったと感じている。

また、日本と朝鮮の両方の伝統文化を専門家の方から直接学び、それぞれを実際に体験したことで、自国の文化に対する関心をさらに高め同時に、他国や他民族への理解をより深めることができた。これらの経験は、多文化共生社会実現の意識を育てる大事な基盤となるであろう。今後は、このような伝統文化などの学習を通して、共通している実践を保護者や地域の方と共に取り組んでいきたいと考える。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他( )